

日本赤十字広島看護大学 過去問題集

2026 年度入学者選抜 試験問題収録



総合型選抜

2026年度 入学者選抜

総合型選抜

小論文 60分

注 意 事 項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題、解答用紙、回収資料、及び模擬授業記録用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認めた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙と回収資料を、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題と模擬授業記録用紙は持ち帰ってよい。

小論文

問題 先ほどの模擬授業の内容を踏まえて、以下の問いに答えなさい。

1. 疾病構造の変化により人々に現在、どのような健康課題が生じているか 300 字以内で述べなさい。
2. 保健・医療・福祉に携わるものは健康課題を解決するための取り組みを人々にどのように促していけばよいかについて、あなたの考えを 500 字以内で述べなさい。

2026年度入学者選抜 問題(総合型選抜 小論文)について

【解答例】

- ・ 疾病構造の変化による人々の健康課題を適切に理解して述べているか。
- ・ ヘルスプロモーションの概念を適切に理解して述べているか。
- ・ ヘルスプロモーションの取り組みをどのように促していけばよいかについて、自己の考えを明確に述べているか（主張）。
- ・ ヘルスプロモーションの概念を踏まえて主張しているか（根拠）。
- ・ 根拠を踏まえて自己の考えを述べているか（根拠）。
- ・ 限界をふまえて自己の考えを述べているか（反証/限定）。
- ・ 論述に一貫性があるか。
- ・ 各設問に対する文字数は適切か。
- ・ 誤字や脱字がないか、言葉の誤用がないか。

2026年度入学者選抜 問題(総合型選抜 小論文)について

【出題意図】

総合型選抜では、本学のアドミッションポリシーである、「国内外の保健・医療・福祉の分野で看護職として活躍したい人」、「人間やその生活および社会に関心を持ってかかわることができる人」を評価する。

そのために、ヘルスプロモーションの概念を通して、これから看護を学ぶ上で、現在の日本の健康課題とヘルスプロモーション概念の理解をふまえて自己の考えを論述する設問とした。

学校推薦型選抜

2026年度 入学者選抜

学校推薦型選抜

小論文 60分

(9:00 ～ 10:00)

注 意 事 項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題、解答用紙及び下書き用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～2ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げる。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げる。
- 10 不正行為があると認めた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題及び下書き用紙は持ち帰ってよい。

問題 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。解答はすべて解答用紙に書くこと。

〈わたし〉とはだれか？ その答えとなるものをひとはアイデンティティと呼ぶ。精神科医のR・D・レインは、このアイデンティティを「それによって、この時この場所でも、過去でも未来でも、1 じぶんが同一人物だと感じるころのもの」（『自己と他者』志貴春彦・笠原嘉訳、みすず書房）と定義している。ひとはじぶんがこれまで経験してきたさまざまなことを材料に、じぶんを「だれ」として仕立ててゆくが、その過程でシナリオはいろんな事件をきっかけに修正されもする。その生成するシナリオがそのつどの〈わたし〉のアイデンティティを構成している。そこから次にアイデンティティのもう一つの定義、「自分が何者であるかを、じぶんに語って聞かせるストーリー 説話」であるとの定義が導かれる。

このストーリーはわたしを〈わたし〉たらしめているものとしてわたしを支えるのだが、ストーリーであるからにはときに破綻もするし、またわたしを閉じ込める檻^{おり}のようなものとして撥ねつけられもする。

このストーリーはわたしが「自分に語って聞かせるストーリー」であるとされるが、いうまでもなく、それはたんなる独り言ではなく、まわりのさまざまな人間を巻き添えにしてゆくものであるし、また同時代のさまざまな出来事に巻き込まれてもいる。つまり、わたしのアイデンティティについての語りは、同時代の世界についての語りと複雑に絡まりあっていて、だからわたしがわたし自身をこの世界、この（歴史的）社会のなかにどうマッピングしているかということと切り離せない。

しかし「かたる」ということが語りであるとともに騙^{かた}りでもあることからあきらかなように、その真理性というものはたやすくは成り立たない。現にわたしがじぶんに向けて語るそのアイデンティティは、往々にして、架空のわたしを騙る偽物語である。じっさい、じぶんについて語ることは、じぶんが経験してきたもろもろの出来事のうち何かをフォーカスし、選択したものであるからには、編集という作業を本質的に含んでいる。そのとき語りの真実性を確保しようとしても、語りが照合されるべき対象（「ほんとうの自分」？）もまた語られたものとして存立するほかない以上、2 語りの真実性は語りの内部では決しえない。辻褄^{つじつま}さえあっていれば（つまり整合的であれば）説話は説話として成立するわけだ。

じぶんを世界に沿わせつつ語るとき、その語りにくさゆえに、苦し紛れに世に流通する言説に共振しがちである。流通する言説のもっともらしさに幻惑されて、その言説の構造についてアイデンティファイ^{アイデンティファイ}してしまう。そしてそこに、3 わかりやすさの落とし穴がある。

ここで一つだけ典型的な例をあげれば、SDGs（持続可能な開発目標）。その十七の目標を見てみると、「すべての人びとに」（for all）という表現が頻出する。ほかに「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」（End poverty in all its forms everywhere）とか「すべての女性および女児」（all women and girls）といった表現もあって、とにかく「すべて」（all）がめだつ。それに、「貧困をなくそう」（No Poverty）、「飢餓をゼロに」（Zero Hunger）というふうに、「すべて」の対極にある「皆無」という表現もまた好まれる。

「すべて」という全称的な表現があまりにたやすく口にされる。じっさいのところ、「環境保護」にしろ「安全」にしろ、さらに「多様性」の称揚にしても、そこに見られる主張はあまりに正当すぎて、だれも正面からは反対できないものである。しかし、そうした主張を構成する命題は、そうした世界の記述の裏にある別の問題群を隠蔽し、スルーすることで、結果として問題を延命させることになっている。いかに高度化（？）した資本

主義といえども、労働の搾取、自然資源の収奪を不可欠の前提として駆動するものであり、そのかぎりでは地上の人びとのあいだに格差と分断をもたらさずにはおかないものであることをおもえば、貧困の撲滅であれ、環境の保護であれ、セキュリティの確保であれ、それぞれに裏を返せば、SDGsも、これまでの市場の構造のよくて修正、あわよくばむしろ資本増殖の機会を捉えて、相も変わらず「経済成長」の持続を狙っているともいえるし、「環境保護」はイノベーションのチャンスとして、「セキュリティ」は監視の強化へとすぐに裏返る。そのかぎりでは、きれいにまとめてはいるが、じつは底の割れた文飾だとの嫌疑も拭いがたい。

4. SDGsが隠蔽している現代世界のこうした構造的な影や闇を明るみに出すためには、おなじ問題を違った角度からも照射するそうした別の視角を具えておかねばならない。できれば現在のじぶんの視点からすれば最遠点にありそうな光源から、いま目の前にあるものを照射しなければならない。

といってもしかし、わたしたちはそうした事態について、その構造や原因や対策が正確に見透せているわけではない。それに考えれば考えるほど問題の脈絡もまたあらたに見えてきて、問われるべきことがらはいっそう増える。そういう複雑性の増大に直面したときにひとが陥りやすいのは、滑りのよい言葉、わかりやすい説話に飛びつくことである。そういうシナリオは、事態がうまくつかめなないときのそのもやもやに、あるいはいらち立ちに、切りをつけてくれるからだ。だが重要なのはその逆、つまり、結論を急がずに、ああでもないこうでもない、ぐずぐず、しこしこと考えつづけることである。問題となっている事象が立体的に見えてくるまで、いわば無呼吸のまま潜水しつづけることである。そこでつけるべき肺活量こそ知的な体力ともいうべきものであり、人びとがこれまで〈教養〉と呼んできたもののなのであろう。

(鷲田清一「わかりやすいはわかりにくい—ぐずぐずする権利—」)

問1 下線部1「じぶんが同一人物だと感じるころのもの」とほぼ同じ内容を言い換えている部分を本文中から20字以内で抜き出して答えなさい。

問2 下線部2「語りの真実性は語りの内部では決しえない」とあるが、なぜそのように言えるのか。「じぶんについて語ること」を例とし、本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問3 下線部3「わかりやすさの落とし穴」とある。私たちがこの落とし穴に陥りやすい理由に当たるものとして最も適切な一文を本文中から抜き出し、最初と最後の5文字を書きなさい。

問4 下線部4「SDGsが隠蔽している現代世界のこうした構造的な影や闇」の内容を端的に説明した部分を2箇所、それぞれ60字以内で抜き出し、最初と最後の5文字を書きなさい。

問5 「わかるということ」についてのあなたの考えを問題文の内容に触れながら600字以内で述べなさい。

受験番号					
氏 名					

2026 年度入学者選抜 学校推薦型選抜
小 論 文 解 答 用 紙

問 1

わ	た	し	を	〈	わ	た	し	〉	た	ら	し	め	て	い	る	も	の		
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

問 2

じぶんを語るということは、もろもろの出来事を編集して架空の〈わたし〉を作りあげる行為であり、(辻褄さえあれば複数の〈わたし〉が成立する可能性があるため、) どの〈わたし〉が「ほんとうのじぶん」なのかは決することはできないから。

問 3

そ	う	い	う	シ	～	れ	る	か	ら	だ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 4

そ	う	し	た	世	～	な	っ	て	い	る
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

こ	れ	ま	で	の	～	狙	っ	て	い	る
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

問 5

- ＊採点基準
- 文章構成
 - 文章表現
 - 説明内容
 - ・「わかるということ」をどのようなものとしてとらえているか。
 - ・「わかるということ」を自身の体験や既有的知識を踏まえて説明できているか。
 - ・「わかるということ」に対する自分の意見を述べているか。
 - ・問題本文の内容に触れているか。

2026年度入学者選抜（学校推薦型選抜 小論文）について

【出題意図】

出題本文は著者鷲田清一氏が2019年以降に執筆したエッセイを集めた『「透明」になんかされるものか—鷲田清一エッセイ集』（朝日出版社2025年）からとりあげた。

初出はせんだいメディアテーク編『つくる〈公共〉50のコンセプト』（岩波書店2023年）。アイデンティティの問題から我々がじぶんやその周りの世界を語ること、そして自分や世界を理解することの危うさや難しさについて述べたもの。高校での学びを終え、新しい環境や世界のなかで他者と関わることとなる受験生が、これまでの自分について改めて考え、環境や世界に自分を位置づけることを考えるきっかけとして、またわかりやすい答えを早急に求めるのではなく、複雑なものを複雑なままに受け入れて考えつづけることの必要性を知ることを期待してとりあげた。

一般選拔

2026年度 入学者選抜

一般選抜

国語 60分

(9:00 ～ 10:00)

注 意 事 項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～3ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認めた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

問題 次の文章は、看護専門学校で文学を教える際にナイチンゲールの著作を扱った経験に基づいたものである。これを読んで後の問いに答えよ。

看護、文学、養生を、私という個人が、三つともに同時に行ってみた記録は、生きるヒントや養生する言葉の手がかりになるかもしれない。看護と文学は、当然、違いがありながらも、互いの知恵を共有できる。何よりも日常生活における実践では、これらが分かち **a 難**く結びついている。私は、ここで、ケア、研究、実践といったことが個人のなかでどう折り重なっているのかを書いてみたい。生きること、ケアすることの基礎についてもナイチンゲールは書いているように思う。

看護師のまさに基本は、患者が何を感じているかを、患者に **b 辛**い思いをさせて言わせることなく、患者の表情に現われるあらゆる変化から読みとることができることなのである。
(『看護覚え書 第8版』、二二七頁)

ところで看護師は、これと同じように、患者の顔に現われるあらゆる変化、姿勢や態度のあらゆる変化、声の変化のすべてについて、その意味を理解《すべき》なのである。また看護師は、これらのことについて、自分ほどよく理解している者はほかにはいないと確信が持てるようになるまで、これらについて **c サグ**るべきなのである。
(『看護覚え書 第8版』、二二八頁)

ナイチンゲールがここでいおうとしているのは、微細なもの、本当に **d 些細**な変化に気がついて、何かを患者が訴える労力（生命力を消耗させるようなこと）なしに読みとることの重要性である。たとえば、患者の様子を注意深く観察し、窓を開けるとか、閉めるとかができるようになることである。自分自身についても、他者との関係においても、**1 この調整**ができるようになると、だいが、**e 心地**よさが出てくる。

これをしようとするとき、ひと呼吸おいて、自分や周囲を観察できることも大事だろう。誰が何をして、どう動いているのか、それをよく見る。意外な動きもあるだろうし、予測できないことも多くあるだろう。それらをもらすことなく静かに見つめる。よく観察してみると、実はこういう形だったのか、こういう音だったのかと気がつくこともある。自分の枠組みだけで見ていると気がつかないことも多い。細部が見えつつ、全体を見渡せるというのができたらよい。

文学に引きつけていうと、細部の表現を詳細に分析しながら、その細部が物語の全体をどう構成しているか、それを同時に検討できることにつながる。細部の記録や描写の分析と全体像の **f ハアク**、それぞれの方法を自分なりに持てるといい。細部か全体かのどちらかのみだと、**2 木を見て森を見ずにも、森を見て木を見ずにも**なってしまう。

こうして慎重に観察できるようになれば、行動すべき瞬間と待つべき瞬間を見きわめられるようになる。何かの行動をするとき、とくに相手がいる場合など、**A 間合い**や呼吸を見きわめることは大事である。**3 最善**のときに **g ハナ**った言葉は相手に届きやすい。何か行動するときにも、注意を払って、このときだというのを見きわめる。そのときを待つこともひとつの重要な行動である。『看護覚え書』の「おせっかいな励ましと忠告」とい

う章で、ナイチンゲールは、「病人」を前にして、「悦びをもたらすような話題」、「たった一時間でも気分転換をもたらすような話題」を提供することを私たちは忘れてしまうことがあると書いている。相手が欲するものを的確に知るには、相手について記憶していること、変わってゆくたびにそれを **h コウシン** することが必要なのだと思う。そうして得られるのが、**B ひとより** がりでも、押しつけでもなく、心がほぐれる瞬間である。

つまり、これらを言い換えると、過不足なく調和させることといえるのではないか。適切なぶんを適切な方法で、調整できるようになるということだ。ナイチンゲールは、「食事内容を適切に選択し適切に与えること」の重要性についても書いているが、過不足なく調和させること、力の消耗を抑えて、力の使いどころと抑えどころを知ってゆくのはとても大事だ。休む時間をとれるようになる。休む技術を知ったり、自分の人生や毎日の時間の配分を整えてみるのは養生に有効であるだろう。

この連載をはじめたときに手がかりにした神田橋條治の『心身養生のコツ』の中で、神田橋は、「正しいか誤りか」、「正・誤」の仕分け」をする「論」には「ひやり」とする、のびのびとしたフィーリングの世界である「物語」が好きだと書いている。それは、自分の心の近くにちょっと置く「ヒント」、つまり、「コツ」である。ナイチンゲールもまた、『看護覚え書』の「はじめに」で、「看護することを教えるための^{マニュアル}手引書」ではなく、「考え方のヒント」であるといっていることも興味深い。

神田橋は、「養生のコツ」の「大切」な「基本」は、「「気持ちがいい・悪い」という感じをつかんで、その感じですべてを判定すること」と書く。私にとって、この最たるものは、自分の心の中でしっくりとこない、心地よく感じられない言葉は使わないということである。そうは思っていないのに多くの人がそういつているから使うとか、自分が納得していない言葉を使うと消耗する。私は自分の心から出た言葉を使うという方向に^{かじ}舵を切った。暴言とか好き勝手をいうのとはまったく違うし、無責任な言葉をいうのでもない。私は、心の底で納得し、十年後、二十年後、自分の死後に読んだ人に受けとってもらえる言葉をさがしてゆこうと思う。そのとき、自分自身が納得して使っているのではない言葉、検討していない言葉は聴いている人にすぐにわかってしまう。同時代の言葉を受けとりながらも、そうして受けとめた言葉を個の表現としてつくりなおしてゆく。私はこの過程を養生する言葉を見つけることを通じてやっているように思う。

もう一つ付け加えると、今の時代、ナイチンゲールの「看護は **i ギセイ** 行為であってはなりません。人生の最高の喜びのひとつであるべきです」(『ナイチンゲール著作集 第三巻』、四三一頁) という言葉が **4 ますます大事になってくる**。ナイチンゲールは看護をする人々が休むことの重要性やセルフ・ケア、地位の向上や賃金の安定についても書いた人なのである。私は、ケアについて書いている多くの論者が一致しているように、この大変な時代だからこそ、ケアが基礎になるように社会をつくってゆくのがよいと思う。ケアとは **j 重荷** を押しつけあうことでは決してない。私たちが生きるうえで必要な養生のすべてを指す言葉なのだ。

(岩川ありさ『養生する言葉』による)

*この連載…この文章は 2023 年から 2024 年にわたる『群像』誌の連載記事をもとにした著作の一節である。

- 問1 下線部 c・f・g・h・i のカタカナ部分を漢字で書きなさい。
- 問2 下線部 a・b・d・e・j の読みを平仮名で書きなさい。
- 問3 下線部 A、B の意味としてふさわしいものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。
- A 間合い (イ 十分な場所 ロ 適度な休憩 ハ 制限時間 ニ 適当な時機)
- B ひとりよがり (イ 自分ばかり話すこと ロ 誰にも相談せずに判断すること
ハ 最善であると考えること ニ 固い決意を示すこと)
- 問4 下線部 1 「この調整」ができるようになると何がいいのか。それを説明している箇所を本文中から 30 字以内で抜き出して答えなさい。
- 問5 下線部 2 「木を見て森を見ずにも、森を見て木を見ずにもなってしまう」とある。このことを本文中の言葉を用いて説明しなさい。
- 問6 下線部 3 「最善のとき」と同じ意味の言葉を本文中から 8 字で抜き出して答えなさい。
- 問7 下線部 4 「ますます大事になってくる」とある。ナイチンゲールの「看護はギセイ行為であってはなりません。人生の最高の喜びのひとつである」という言葉を「大事」にすると、「看護」「ケア」はどのように考えるべきか。本文中の言葉を用いて述べなさい。
- 問8 二重傍線部「養生する言葉」とはどういう言葉ですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

受験 番号					
氏名					

2026 年度入学者選抜 一般選抜

国 語 解 答 用 紙

● 解答はすべて横書きで記すこと。

問 1

c	探	f	把握	g	放	h	更新	i	犠牲
---	---	---	----	---	---	---	----	---	----

問 2

a	がた	b	つら	d	ささい	e	ここち	j	おもに
---	----	---	----	---	-----	---	-----	---	-----

問 3

A	二	B	口
---	---	---	---

問 4

行	動	す	べ	き	瞬	間	と	待	つ	べ	き	瞬	間	を
見	き	わ	め	ら	れ	る	よ	う	に	な	る			

問 5

細部ばかり注目して全体を捉え切れていなかったり、全体を捉えることを急ぐ余り、細部の大事なところを見逃してしまったりする。
--

問 6

心	が	ほ	ぐ	れ	る	瞬	間
---	---	---	---	---	---	---	---

問 7

大変な時代だからこそ、看護される側と同じように看護する側もケアされる、ケアが基礎となる社会をつくっていかなければならない。

問 8

他者の生を活性化し、発した自分にも同じことが起こるような、人も自分も心地よくする言葉
--

2026年度入学者選抜 問題（一般選抜・国語）について

【出題意図】

本書は、現代社会で「傷つく経験をしてきた人たちがふっと生きられると思える物語」を看護・文学・養生に関する多くの著作に求め、それらを読み解きながら「養生する」（生を養う）言葉を探るものである。

問題本文は、ナイチンゲールの著作をもとにしながら、本書執筆の動機ともなった精神科医神田橋條治氏の『心身養生のコツ』（岩崎学術出版社、2019年）にも立ち返りつつ、「ケアが基礎となる社会をつくっていくことの重要性を指摘した箇所である。「養生する言葉」とは「自分をいたわり、生きてもいいと背中を支える」言葉であり、日常のなかでそのような言葉を手にするために何を考えどのように行動すればいいのかということを探究した本書は、将来医療や看護・介護の現場で仕事に取り組むことを目指す受験生にも継続して考えてほしい内容を多く含んでいる。

2026年度 入学者選抜

一般選抜

数学（数学Ⅰ・数学A） 60分

（ 10:45 ～ 11:45 ）

注 意 事 項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～4ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げること。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げること。
- 10 不正行為があると認めた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

I 以下の問いの に入る適切な数または語句を答えなさい。

〔1〕 1個のさいころを4回投げるとき、5以上の目が2回だけ出る確率は

(1) である。

〔2〕 大、小2個のさいころを同時に投げるとき、異なる目が出る確率は

(2) である。

〔3〕 ある商品を買うと、右の表のような賞金がついた

くじを1回引くことができる。ただし、くじを引かない

場合には、商品を200円値引きしてもらえらる。

このくじを引くことは有利であるといえるか考えて

みよう。

賞金	本数
5000円	10本
1000円	50本
500円	220本
はずれ	720本

このくじ1回の賞金の期待値は (3) 円である。

よって、賞金の期待値が値引きの金額よりも (4) ので、

くじを引く方が (5) といえる。

Ⅱ 以下の問いの に入る適切な数または語句を答えなさい。

生徒 A があるさいころを 10 回投げたところ、6 の目が 4 回出た。そこで、
生徒 A は「このさいころは正しく作られていない」と主張している。

この主張が正しいかどうかを、基準となる確率を 5 % として、仮説検定の
考え方を用いて判断してみよう。

なお、右の表は正しく作られたさいころを 10 回投げる
ことを 1000 セットくり返したとき、6 の目が出た回数の
割合を調べた結果である。

6 の目が 出た回数	割合
0 回	16.2%
1 回	32.0%
2 回	28.9%
3 回	16.0%
4 回	5.4%
5 回	1.3%
6 回	0.2%
7 回	0%
8 回以上	0%

主張「このさいころは正しく作られていない」

仮説「このさいころは (6) 」

右の表から、正しく作られたさいころを 10 回投げたとき
6 の目が 4 回以上出る割合は (7) % となる。

これは、基準となる確率 5 % よりも (8) 。

したがって、仮説は (9) とは判断できない。

つまり、生徒 A の「このさいころは正しく作られていない」という

主張は (10) 。

Ⅲ 以下の問いの に入る適切な数を答えなさい。

2 次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフは、点 $P(0, 5)$ を通り、 x 軸と点 Q で接するとする。

また、点 P を通り x 軸に平行な直線とこの 2 次関数のグラフとの交点を R とする。

ただし、点 R の x 座標の値は点 P の x 座標の値より大きいとする。

〔1〕 点 $Q(2, 0)$ で接するとき、 a 、 b 、 c の値を求めると、

$a =$, $b =$, $c =$ である。

〔2〕 $PQ = \sqrt{34}$ のとき、 a 、 b 、 c の値を求めると、

$a =$, $b =$, $c =$ である。

〔3〕 $PR = \sqrt{6}$ のとき、 a 、 b 、 c の値を求めると、

$a =$, $b =$, $c =$ である。

IV 以下の問いの に入る適切な数を答えなさい。

三角形 ABC において、 $AB=6$ ， $AC=4$ ， $\angle BAC=60^\circ$ とする。

このとき、三角形 ABC の面積は (18) ， $BC=$ (19) である。

次に、頂点 A から辺 BC に引いた垂線と辺 BC との交点を H とすると、

$AH=$ (20) ， $\cos \angle ABC=$ (21) である。

さらに、 $\angle BAD=30^\circ$ となるように辺 BC 上に点 D をとると、

$DH=$ (22) である。

数学解答例・配点および採点基準

2026 年度入学者選抜 一般選抜

数学 解答用紙

I 30点	(1) 8点	$\frac{8}{27}$		(2) 8点	$\frac{5}{6}$		(3) 8点	210		小計
	(4) 3点	大きい ※「高い」「多い」も可			(5) 3点	有利である ※「有利」「有効」「得」も可				
II 20点	(6) 4点	正しく作られている			(7) 4点	6.9		(8) 4点	大きい ※「高い」も可	小計
	(9) 4点	正しくない			(10) 4点	正しいとはいえない ※「正しいと判断できない」も可				
III 20点	(11) 3点	$\frac{5}{4}$		(12) 3点	−5		(13) 2点	5		小計
	(14) 3点	$\frac{5}{9}$	(15) 3点	$-\frac{10}{3}$		(16) 3点	$\frac{10}{3}$		(17) 3点	$-\frac{10\sqrt{6}}{3}$
IV 30点	(18) 6点	$6\sqrt{3}$		(19) 6点	$2\sqrt{7}$		(20) 6点	$\frac{6\sqrt{21}}{7}$		小計
	(21) 6点	$\frac{2\sqrt{7}}{7}$			(22) 6点	$\frac{18\sqrt{7}}{35}$				

2026年度入学者選抜 問題(一般選抜 数学)について

【出題意図】

問題Ⅰ～Ⅳまでの4題で、いずれも「数学Ⅰ」と「数学A」の内容にかかわる問題である。

「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」、「図形の性質」、および「場合の数と確率」についての基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみるために、以下の4題を出題した。

問題Ⅰは、数学Aの「場合の数と確率」について、〔1〕〔2〕は事象の確率についての基礎的な知識の習得と技能の習熟をみる問題であり、〔3〕は期待値を意思決定に活用する能力をみる問題である。

問題Ⅱは、数学Ⅰの「データの分析」について、仮説検定の考え方を理解し、主張の妥当性について考察し表現する能力をみる問題である。

問題Ⅲは、数学Ⅰの「二次関数」とそのグラフについて、基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみる問題である。

問題Ⅳは、数学Ⅰの「図形と計量」と数学Aの「図形の性質」について、三角比や余弦定理、および三角形に関する基本的な性質などの基礎的な知識の習得と技能の習熟、数学的な見方や考え方の習得、およびそれらを活用して考察し表現する能力をみる問題である。

2026年度 入学者選抜

一般選抜

外国語（英語） 60分

（ 13：00 ～ 14：00 ）

注 意 事 項

- 1 受験票は、机に貼ってあるラベルにはさみ、許可されたもの以外は、机の上に置かないこと。なお、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル端末等の電源は切ること。
- 2 開始の合図があるまで、試験問題及び解答用紙に手をつけないこと。
- 3 開始の合図があったら、最初に試験問題及び解答用紙に落丁や印刷の不鮮明なところがないかどうか調べ、もしあれば申し出ること。
落丁等がなければ、直ちに解答用紙の指定した欄に、「受験番号」、「氏名」を記入すること。
- 4 試験問題は1～6ページである。試験問題の余白は、下書き・メモに使用してよい。
- 5 解答は、解答用紙の指定された解答欄に黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入すること。
- 6 解答用紙には、所定の欄以外の場所に、何も書かないこと。
- 7 途中退場は許可しない。
- 8 試験問題について不明な点がある場合は、静かに手を挙げる。ただし内容に関する質問には応じない。
- 9 気分の悪くなった時や、トイレに行きたい時などは手を挙げる。
- 10 不正行為があると認めた場合は、直ちに退場させる。
- 11 終了の合図があったら、解答用紙のみ、表を上にして机の端に置き、試験監督者の指示を待つこと。試験問題は持ち帰ってよい。

I. 次の英文を読み、A～Bの質問に答えなさい。

The hidden meanings of British place names

The names of most Japanese towns and cities are easy to understand for Japanese speakers – Osaka means “large hill” or “large slope”, Nagasaki means “long cape” or “long headland”, and Hiroshima grew on a “wide island”. These names came from the geographic features of the area. Similarly, many British place names reflect geographic characteristics. However, unlike in Japan, the meanings of these names may be less easy to understand – even for native speakers of English.

British place names are a fascinating legacy of invasion and settlement, revealing Celtic, Roman, Anglo-Saxon, Norse and Norman influences. They show us who settled the area, what the geography was like, or what activity happened there.

The Celts were a collection of diverse tribes who lived in ancient Britain, particularly during the Iron Age. They ruled Britain for centuries until the Roman invasion in AD 43, when they were defeated and either retreated to, or remained in, modern-day Wales, Scotland and Cornwall.

Both the Celts and Romans left their marks on British place names. “*Pen-*” or “*ben-*” is a Celtic word that means “hill” or “head”, as in the town of Penrith, or the name of the highest mountain in Britain, Ben Nevis. In the same way, the Celtic word “*avon*”, meaning “river”, survives in places such as Bradford-upon-Avon, and in Shakespeare’s birthplace, Stratford-upon-Avon. Another Celtic word, “*-combe*” (valley) is also frequently found in names such as Ilfracombe and Castle Combe.

Perhaps the most famous Roman influence can be found in the Latin word “*castrum*”, a walled town or defensive structure (a fort, similar to a castle) where soldiers would make camp. Many British towns grew up around these forts, and we can see their origins in the name endings “*-chester*”, “*-caster*”, and “*-cester*”, for example, Chester, Manchester, Lancaster, and Leicester.

After the Romans left Britain, Germanic tribes such as the Angles and Saxons, arrived from northern Europe. Over several centuries they too influenced the names of the places in which they settled. The Anglo-Saxon word “*-ton*” or “*-tun*” (meaning farm or settlement) is one of the most common of all Old English place names: Brighton, Taunton, Luton. Similarly, “*-ham*” (meaning homestead or village) is also familiar in the names Birmingham, Nottingham and Buckingham.

As noted above in names like Stratford, any place names containing “*ford*” indicate that the town developed at a place where it was easy to cross a river: examples include Oxford, Stafford and Chelmsford. Another Anglo-Saxon ending, “*-wich*”, originally indicated a settlement, but later became more closely associated with trading. Examples include Sandwich, Greenwich and Norwich. A final Anglo-Saxon ending with Germanic origins is “*-borough*” or “*-bury*”, (a variation of the German “*-burg*”, meaning “fortified settlement”), examples of which can be found in Canterbury, Edinburgh, Middlesbrough and Loughborough.

The next wave of settlers saw the arrival of Norsemen – Viking invaders from Scandinavia. They mostly settled in the northern and eastern parts of England, and their legacy can be seen in place names ending in “*-by*” (farm or village), such as Derby, Grimsby, Whitby; “*-thorpe*”

(secondary farm or settlement), such as Scunthorpe and Cleethorpes; and “-kirk” (church), Ormskirk, Kirkby and Falkirk. Some, such as “-ness”, meaning “cape” or “headland”, were used both in Old Norse (Skegness) and Old English (Sheerness and Shoeburyness).

Finally, we should mention “-mouth” and “-bridge”, which indicate towns that developed at the mouth of a river or on a bridge over a river: Exmouth (on the River Exe), Dartmouth (on the River Dart), Plymouth (on the River Plym), and Cambridge (on the River Cam).

There are, of course, countless others that most English speakers wouldn’t understand (among them, “-dene”, “-firth”, and “-bourne”) but which, if learned, can greatly enrich our understanding of the history and geography of our surroundings.

(621 words)

A. この英文の説明として適切なものを a～l の中から 4 つ選び、記号で答えなさい。

- a. Geographical features rarely form the basis for Japanese place names.
- b. Throughout its history, Britain was settled by various groups.
- c. British town names are always based on geographical features.
- d. The Celts disappeared from Britain after being defeated by the Romans.
- e. The word “ben” refers to a town of Celtic origin that developed on a river.
- f. Many British cities founded by the Romans were settled for military purposes.
- g. Anglo-Saxon (or “Old English”) place names were mostly based on former Roman settlements.
- h. “Oxford” is an example of how a geographical feature influenced a town’s name.
- i. Towns with names ending in “-wich” were based on a geographical feature.
- j. The roots of some Anglo-Saxon place names can be seen in variants of the German word “-burg”.
- k. Names of Norse or Viking settlements always had agricultural associations.
- l. Towns with names ending in “-ness” share a geographical characteristic with Osaka.

B. 次の 1 と 5 の英文で、本文の内容に合うように a～e の中から空欄____に入る最も適切なものを選んで記号で答えなさい。また、2, 3, 4, 6 の英文の質問に対しては正しい答えを a～e の中から選び、記号で答えなさい。

1. Complete the sentence with the most appropriate ending: “According to the text, many British and Japanese place names _____.”

- a. originate from the characteristics of the surrounding land
- b. reflect the influences of immigrants and invading armies
- c. show how the importance of towns and cities has changed over the years
- d. were based on ancient Latin and Anglo-Saxon words
- e. were designed to make town names easier to understand

2. Which of the following words is closest in meaning to the underlined word “fascinating” in paragraph 2?

- a. ancient
- b. confusing
- c. historic
- d. interesting
- e. unusual

3. Which of the following words is closest in meaning to the underlined word “diverse” in paragraph 3?

- a. domestic
- b. native
- c. peaceful
- d. varied
- e. warlike

4. Which of the following words best defines the underlined word “settlement” in paragraphs 2, 6-8?

- a. a base for trading goods
- b. a community where people live
- c. a farming or agricultural area
- d. a place near a river
- e. an area of high ground

5. Complete the sentence with the most appropriate ending: “According to the text, Japanese place names may be relatively easy to understand, whereas _____.”

- a. people rarely understand how to pronounce them
- b. physical features such as rivers and mountains are seldom used
- c. rivers and valleys are more common in English place names
- d. the meanings of British place names may be much less obvious
- e. the meanings of many British place names are clear

6. Based on the final two paragraphs, which of the following statements is **NOT** true?

- a. Learning place names will increase our awareness of the history and geography of the area.
- b. Names using words like “-bridge” and “-mouth” indicate physical or geographical features.
- c. Native speakers of English can generally understand all British place names.
- d. The meanings of endings such as “-dene” or “-firth” are less obvious than place names using “-bridge” and “-mouth”.
- e. There are several other place names that are harder to understand than “-bridge” and “-mouth”.

II. 次の英文で空欄 _____ に入る最も適切な語(句)を、a～eの中から1つ選び、記号で答えなさい。

1. They used to be very close, but in later years they started to _____ apart.
 - a. choose
 - b. drift
 - c. engage
 - d. improve
 - e. suggest

2. We saw each other every day at work, but these days we _____ meet.
 - a. accidentally
 - b. boldly
 - c. carelessly
 - d. rarely
 - e. silently

3. The group aimed to _____ a new app that would revolutionize the industry.
 - a. create
 - b. creation
 - c. creative
 - d. creatively
 - e. creator

4. The drink had a refreshing _____ flavor that I really enjoyed.
 - a. bitterness
 - b. greenish
 - c. lemony
 - d. smell
 - e. sweeten

5. I _____ you even if I'd known.
 - a. am telling
 - b. tell
 - c. told
 - d. was telling
 - e. wouldn't have told

6. They wished him _____ a complete recovery before going back to work.
 - a. made
 - b. makes
 - c. making
 - d. to make
 - e. to making

7. We'll finish work soon, then we'll _____ to my place.
- a. face up to
 - b. give up
 - c. hand back
 - d. head over
 - e. work out
8. Security was really poor, so the burglars could _____ quite easily.
- a. break down
 - b. break in
 - c. break off
 - d. break out
 - e. break up
9. We couldn't save enough money, _____ we decided to postpone the holiday.
- a. although
 - b. because
 - c. for
 - d. so
 - e. that
10. _____ decided that policy needs to have a serious rethink.
- a. What
 - b. Whatsoever
 - c. Whenever
 - d. Who
 - e. Whoever
11. He's _____ good-looking, but not in a conventional way.
- a. as usual
 - b. in time
 - c. kind of
 - d. next to
 - e. part of
12. The prefix "*mal*" in the words "malformed" and "maladjusted" is closest in meaning to _____.
- a. badly
 - b. greatly
 - c. largely
 - d. strongly
 - e. well

III. 1～3 の会話を読み、空欄_____に入る最も自然な会話の応答となるものを a～e の中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

1.

A: I've been thinking about our presentation. Do you think you could move this table for me?

B: _____

A: Pay attention, will you? I mean *this* table, in the presentation slide, this chart, not the desk!

- a. Do you have some time to help me with our presentation?
- b. I'll move it, but I need more time to update the data.
- c. Oh? Is the data in that table completely out of date?
- d. Sure. Could you give me a hand? It's a bit heavy.
- e. You mean the PowerPoint? Will I get paid more for doing that?

2.

A: I think we should start the campaign tomorrow – I think we're ready.

B: _____

A: I'll take full responsibility. I'm sure there won't be any issues.

- a. Didn't you hear? The finance department has cancelled it. There's no budget.
- b. Do you know when it will happen?
- c. I agree. It's much too early. Testing hasn't been properly carried out yet.
- d. I'm not so sure. It could lead to all sorts of trouble.
- e. We're far from ready. The materials won't be printed until next week.

3.

A: I've been avoiding Jack since I let his secret slip out at the party.

B: _____

A: I thought about it, and I want to, but I'm worried that he won't forgive me.

- a. I think you should just keep avoiding him.
- b. I tried reaching out to him, but he got really mad.
- c. That was quite some party, wasn't it!
- d. Why did you tell everyone about him getting married? That was a big mistake.
- e. You should apologize to him. Honesty is the best policy.

受験 番号					
氏名					

2026年度入学者選抜 一般選抜
外国語(英語) 解答用紙

--

採点合計

I. A.

b	f	h	j
---	---	---	---

(なるべくアルファベット順に書いてください)

B.

1	2	3	4	5	6
a	d	d	b	d	c

--

Iの合計

II.

1	2	3	4	5	6
b	d	a	c	e	d

7	8	9	10	11	12
d	b	d	e	c	a

--

IIの合計

III.

1	2	3
d	d	e

--

IIIの合計

2026年度入学者選抜 問題（一般選抜・英語）について

【出題意図】

- I A. 文の真意を見分けることによる総合的な英語読解力をみる。
 - B. 内容を正確に把握するための十分な語彙力の有無と正確な文章理解力を見る。
 - 1. 英文の正確な読解
 - 2. 正確な語彙力
 - 3. 正確な語彙力
 - 4. 正確な語彙力
 - 5. 英文の正確な読解
 - 6. 英文の精読と内容理解
- II 語彙力、文法、英文の正確な読解力を見る。
 - 1. 熟語の理解
 - 2. 副詞の理解
 - 3. 動詞の理解
 - 4. 形容詞の理解
 - 5. 仮定法の理解
 - 6. 動詞の理解
 - 7. 熟語の理解
 - 8. 熟語の理解
 - 9. 接続詞の理解
 - 10. 関係詞の理解
 - 11. 熟語の理解
 - 12. 接頭語の理解
- III 日常会話でのやり取りの理解を見る。